

沖縄の離島市町村の状況

市町村名	本島からの距離【km】	物価【那覇=100】	飲料【那覇=100】	揮発油【円/L】	国勢調査人口 (H27速報値) 【人】		職員数 (普通会計) (H27.4.1現在) 【人】	歳出総額 (標準財政規模) (H26)【百万円】	備考
						増減数【人】 (増減率)			
石垣市	411	112.7	140.4	176	47,660	738 (1.6%)	497	24,662 (13,068)	・島外の大学・専門学校進学。 ・自然動態による増はあるものの減少傾向。 ・現状推移の場合、人口減少に至ると予想。
津堅島 (うるま市)	26	133.3	192.4	166	391	-79 (-16.8%)	741	53,206 (26,201)	・島外の就業。 ・自然動態は減。
宮古島市	287	110.7	121.2	179	51,196	-843 (-1.6%)	688	36,713 (19,016)	・島外の大学・専門学校進学。 ・自然動態は減。
久高島 (南城市)	21	-	-	-	206	-63 (-23.4%)	297	22,891 (10,862)	・島外の老人福祉施設の入居。 ・自然動態は減。
水納島 (本部町)	50	-	-	-	41	-1 (-2.4%)	109	8,072 (3,717)	・自然動態は減。
伊江村	57	-	-	171	4,262	-475 (-10.0%)	112	6,223 (2,282)	・公共工事の減少に伴う従事者(家族含む)の減。 ・自然動態は減。
渡嘉敷村	32	-	-	163	731	-29 (-3.8%)	35	1,760 (703)	・島外の高校進学。 ・自然動態は減。
座間味村	38	142.7	191.7	167	870	5 (0.6%)	32	2,114 (775)	・平成17年国勢調査から減少傾向。 ・村営住宅建設により下げ止まる兆しはあるものの、島外の高校進学等に伴い、今後は減少傾向と予想。
粟国村	61	132.1	166.1	156	710	-153 (-17.7%)	29	1,863 (649)	・島外の高校進学。 ・自然動態は減。
渡名喜村	57	-	-	161	430	-22 (-4.9%)	23	1,490 (421)	・島外の高校進学。 ・自然動態は減。
南大東村	358	-	-	168	1,329	-113 (-7.8%)	44	3,722 (1,177)	・島外の高校進学(家族を含む)。 ・公共工事の増減はないが、全国的な人手不足により、従事者が減。 ・自然動態は増。

市町村名	本島からの 距離 【km】	物価 【那覇=100】			国勢調査人口 (H27速報値) 【人】	増減数【人】 (増減率)	職員数 (普通会計) (H27.4.1現在) 【人】	歳出総額 (標準財政規模) (H26)【百万円】	備考
			飲料 【那覇=100】	揮発油 【円/L】					
北大東村	366	142.5	176.8	177	629	-36 (-5.4%)	32	2,672 (716)	・公共工事の減少に伴う従事者の減。 ・自然動態は増。
伊平屋村	96	-	-	179	1,238	-147 (-10.6%)	45	3,144 (1,122)	・島外の高校進学(家族含む)。 ・島外の就業(家族含む)。 ・公共工事の減少に伴う従事者の減(家族含む)。 ・自然動態は減。
伊是名村	84	134.8	163.5	162	1,516	-73 (-4.6%)	60	6,847 (1,106)	・島外の高校進学。 ・自然動態は減。
久米島町	89	127.4	176.0	177	7,761	-758 (-8.9%)	173	8,253 (4,067)	・島外の高校進学(家族含む)。 ・島外の長期入院・通院。 ・入域観光客数の減少に伴う従事者の減。 ・公共工事の減少に伴う従事者の減(家族含む)。 ・自然動態は減。
多良間村	345	131.5	170.6	170	1,196	-35 (-2.8%)	48	3,208 (1,172)	・島外の高校進学。 ・自然動態は減。
竹富町	411	136.8	179.0	177	3,995	136 (3.5%)	125	8,076 (3,028)	・社会動態は年により大きく変動。 ・自然動態は安定。 ・社会経済情勢の影響を受けやすく、対策が必要。
与那国町	516	146.1	192.1	172	1,843	186 (11.2%)	67	3,856 (1,319)	・自衛隊駐屯地工事等に伴う増はあるものの、島外の高校進学等による減が今後も見込まれることから、直ちに人口減少に入ると予想。 ・自然動態は減。

※ 市町村への聞き取り等により作成(未定稿)。

産業の状況

市町村名	産業構造			主要産業の状況等
	第一次	第二次	第三次	
石垣市	8.8% 4.5%	14.3% 15.0%	66.8% 80.5%	<p>本市の主要な産業は第3次産業であり、飲食や宿泊などのサービス業と主とした観光業がリーディング産業となっている。平成25年3月の新石垣空港開港以来、本市を訪れる観光客数も増加しており開港前の83万人(H24)から130万人(H27)へと50%以上の増加率となっている。</p> <p>第1次産業においては、サトウキビや果実を中心とした農業と畜産業が盛んである。特にサトウキビの栽培は主力となっており、農業の生産額全体のうち約半数となる52%がサトウキビとなっている。その他果実類ではパイナップルの栽培が盛んであり、次いでマンゴーがある。</p> <p>畜産業においては、本市では肉用牛飼養頭数が沖縄県総飼養頭数の約3割を占め、毎月の家畜セリには全国各地から購買者が訪れる黒毛和牛子牛生産地域となっている。また、肥育牛については「石垣牛」が全国的に有名となり、観光業などにも寄与する本市の主要生産物となっている。</p> <p>第2次産業においては建設業が主要な産業である。近年は観光客増加によるホテル等の建設が増えており建設業への需要が高まっている。</p>
津堅島 (うるま市)	73.4%	0.6%	26.0%	<p>漁業分野では、モズクを中心にイカや魚の水揚げが行われ、農業分野では、人参が特産物として有名である。第3次産業における主な業種は、医療・福祉業が4割近くを占め、ほかに卸売・小売業就業者や飲食宿泊業就業者がある。</p>
宮古島市	21.4% 6.1%	14.1% 20.4%	59.8% 73.5%	<p>本市の産業は、純生産の73.5%を第三次産業が占めており、その中でも飲食業・宿泊業をはじめとした観光関連産業が主要な産業となっている。</p> <p>また、本市の特徴として、第一次産業の純生産6.1%と少ない割合であるが、就業者数では市全体の21.4%を占めており、県内の第一次産業就業者数1.7%と比較しても高くなっている。その中でも、サトウキビ生産は県内生産額一位であり、沖縄県内の生産量のうち4割を占め、本市の主要産業のひとつである。</p>
久高島 (南城市)	42.6%	2.7%	53.7%	<p>就業者の殆どが、第三次、第一次産業に占めており、観光関連業や漁業が主要産業となっている。</p> <p>漁業においては、海ブドウの養殖やイカ、カジキ、マグロ類が主な水揚げとなっている。</p> <p>近年では、イラブーの加工品が特産品として県内外に知られている。</p>
本部町				<p>主要産業は第三次産業で、中でもとりわけ宿泊業・飲食サービス業が盛んで、特に観光関係が主力となっている。</p>

市町村名	産業構造			主要産業の状況等
	第一次	第二次	第三次	
伊江村	37.7%	11.3%	50.9%	<p>本村は1島1村の離島村で、第1次産業就業者が就業者全体の約40%を占める農業水産業の盛んな村として知られている。農業については、総農業数は498戸、生産額は38億円を超え、県内有数の農業地帯である。</p> <p>このような中、さとうきび、葉たばこ、花き(主に電照ギク)、とうがん、島らっきょう、インゲン、サトイモ、ゴーヤー、紅イモ等、多様な農業が展開されている。なお、さとうきびは、栽培作物の多様化とともに、昭和58年をピークに作付面積、生産量とも年々減少している。しかしながら、現在も村内農家の約半数を超える農家が作付し、関連産業への波及効果、適切な輪作体系の確立という観点からも、今後もその生産を維持していくことが不可欠である。また、畜産も盛んであり、肉用牛繁殖経営が大部分を占めている。</p> <p>また観光業も盛んで、県内小学校の修学旅行では約3割が訪れており、また近年は県外の修学旅行生の民泊での受け入れを積極的に行っており、年間13万人の観光客のうち5万人が民泊での受入れである。</p>
	17.4%	27.5%	55.1%	
渡嘉敷村	5.8%	8.9%	85.4%	<p>当村は豊かな海洋資源や風光明媚な自然環境を有しており、県内外及び外国から多くの観光客が年間約10万人余り訪れており、観光産業が主軸を担っております。観光客の動向として夏季に集中するのが特徴であり、その夏場においては海水浴客やダイビングといったマリレジャーを目的とした客層となっている。シーズンオフの閑散期には本土から修学旅行や体験学習、マラソン大会を目的とした参加型の団体客を誘致している。</p> <p>また、本村はパヤオ(浮き魚礁)の設置によるマグロ延縄漁を中心に、刺し網や追い込み漁など漁業も盛んに行われている。</p>
	0.6%	21.2%	78.2%	
座間味村	2.5%	4.8%	92.5%	<p>本村の主要産業は第三次産業で、とりわけ観光業がさかんで、特にマリンスポーツが主力となっている。</p> <p>第一次産業では、座間味村の奨励作物はかんしょ、ばれいしょ、大根、キャベツなどであるが、本村の農家は自家消費農家のみであり農作物の出荷は行っていない。また、担い手の高齢化や不足などが課題である。</p> <p>第二次産業では、平成24年度より鮮魚の加工・直売所を設立したことにより、観光地として近海で取れた新鮮な海の幸の食材を地産地消として宿泊所や、村内事業所、また観光客へ提供できる環境が整ったところである。</p> <p>主に鰹、まぐろ、シイラなどが主力として水揚げされている。</p> <p>第三次産業では、世界的にも評価の高いサンゴ礁海域に恵まれておりマリレジャー産業者の質の高いサービスとりピーター育成努力により、先進的な観光地として活力にあふれ、平成27年の年間入域客数は過去もっとも多い10万人を数えた。</p>
	0.7%	11.3%	88.1%	
粟国村	10.4% 2.6%	19.8% 21.3%	68.6% 76.1%	<p>主要産業は、農業では、特にサトウキビの栽培が中心で、次いで畜産業が伸びており肉用牛の飼育が行われている。また、製塩業が盛んで島の特産品として有名である。観光業では民宿の経営やダイビングなどが主力となっている。</p>
渡名喜村	24.0%	16.2%	59.8%	<p>主要産業は第三次産業及び第一次産業の漁業と農業がさかんで、特に農業では「もちきび」、「島人参」の栽培が主力となっている。また、漁業では近海で獲れる「カツオ」、「シイラ」、「マグロ」などが水揚げされ、島の自律的発展に大きく関係している。また、第三次産業での主力は公務員で、民間の産業の参入が少ないといった特徴の産業構造となっている。</p> <p>観光についても、集落内は白砂の道と福木林に囲まれ、赤瓦屋根を敷いた伝統的な屋根の家屋があり、現代では見られない古い集落を体感でき、夜にはフットライトが集落内の道を照らし、幻想的な雰囲気をかもしだし、観光名所の一つとして、観光客から評価されております。また、近年初めての娯楽施設として、パークゴルフ場を整備したことや海水浴場近くのシャワー室を機能強化しており、観光地としての受け入れ体制を積極的に推進・強化している。</p>
	6.0%	16.8%	77.3%	

市町村名	産業構造			主要産業の状況等
	第一次	第二次	第三次	
南大東村	26.4%	31.2%	42.4%	南大東村は明治33年の開拓当初からサトウキビが栽培され第一次産業の中でもとりわけサトウキビ栽培が主要産業となっている。本村の農家一戸当たりの平均した経営耕地面積は8haと広く大型高性能機械が導入され植え付けから収穫まで一貫した機械化体系が確立し、サトウキビは村経済を支える重要な作物である。
	12.1%	54.6%	33.3%	
北大東村	14.6%	40.9%	44.5%	北大東村の基幹産業は農業であり、さとうきび・馬鈴薯・カボチャを中心に、ほ場整備・畑かん排水事業の実施に取り組み整備されつつあり、農作業の機械化一貫体制の確立等、効率化・省力化・近代化を図る基盤整備を実施することにより、生産性の向上や農産物の振興に努めている。
	6.6%	68.0%	25.3%	
伊平屋村	21.9%	18.6%	58.8%	伊平屋村の主要産業は、一次産業で、農業では黒糖原料のサトウキビの栽培と、沖縄では少なくなった稲作が中心となっている。合わせて繁殖牛(子牛)の生産も行われている。そして水産業では、もずくの養殖が主要作物となっている。
	6.0%	45.3%	48.8%	
伊是名村	26.0%	21.2%	52.7%	農業が本村の基幹産業であり、とりわけさとうきび栽培が盛んである。平成27年度の収量は21,975tあった。殆どの農家がさとうきびを栽培しており、さとうきび以外では、稲作や野菜を栽培している。 近年農地の基盤整備もほぼ完了し、また地下ダム建設によるかんがい施設整備もほぼ完了し、水あり農業が可能となったことから、今後の農業の展開に期待が寄せられている。 農家戸数は年々減少傾向にあり、従事者の高齢化が顕著である。
	8.8%	54.1%	37.1%	
久米島町	27.7%	15.5%	56.4%	本町の主要な産業は第一次産業で、中でも農業がさかんで、特にさとうきびが主力となっています。 久米島町における第一次産業の特色は、農業を基軸とした産業構となっており、さとうきびを中心に、肉用牛、野菜(かんしょ、にがうり、さやいんげん、さといも、かぼちゃ等)、花き類(電照菊等)が生産され、経営の複合化が進んでいます。最近では、熱帯果樹が栽培されるなど作物の多様化も進んでいます。 また、周辺海域に好漁場を保有している本町では、周年を通して漁業が盛んであり、近年では、もずくやクルマエビを代表とした育てる漁業に力を入れています。 また、海洋深層水関連の農業や養殖業、製造業の成長も著しく、久米島の新たな基幹産業の一つになりつつあります。 第二次産業においては、前述の海洋深層水に関連した製造業、久米島紬、琉球泡盛、味噌等があげられ、地場産業としても島外にも広く知られております。 第三次産業においては、観光業が盛んで、ハテの浜などに代表される美しい海岸とサンゴ礁の海へのダイビングなどを目玉に、県内外から多くの観光客が訪れます。奥武島の畳石及び五枝の松等豊かな自然環境に恵まれ、琉球王朝時代には進貢貿易の中継基地の役割を果たしたことから、多くの歴史的、文化的遺産にも恵まれており、多様な観光資源を有しております。
	9.6%	19.4%	71.0%	
多良間村	45.1%	12.2%	41.9%	本村は、第一次産業の中でも農業がさかんで、特にさとうきびの栽培が主力となっており、近年は畜産業も伸びている。第三次産業の中ではダイビング業が盛んである。
	18.7%	36.6%	44.8%	

市町村名	産業構造			主要産業の状況等
	第一次	第二次	第三次	
竹富町	17.9%	6.6%	75.4%	<p>竹富町の主要産業は観光業になる。全国の宿泊観光客数が漸減・横ばい状況の中で、沖縄県の入域観光客数は順調に増加し、2015年には過去最高の776万人を記録した。これに伴い、竹富町の入域観光客数は2014年で約116万人と増加し続けている。理由としては高速船の大型化、沖縄ブーム、新石垣空港の開港、周遊型旅行商品の増加等が考えられる。</p> <p>しかし周遊型観光、つまり石垣市からの日帰り観光が圧倒的に多い。町内での宿泊数、滞在時間が少ないために、観光消費額は石垣市に比べはるかに低い。要因として、①島々の定期航路が石垣発着であること②民宿が主体の竹富町の宿泊施設では観光客の多様なニーズに応えにくく、小規模施設により団体客を受け入れ難いこと、等が挙げられる。また、土産物・飲食などの観光消費も少ないのは、島での滞在時間が少ないことが大きな原因であるが、一方で買いたいと思わせる地元の物品、食べたいもの、滞在したい空間が少ないのも一因である。総じて、観光客数に見合った経済活動を伴っておらず、観光業が見かけほど栄えているとは到底言えない状況である。</p> <p>竹富町としては、「日本最南端の町」という地の利を活かして認知度を向上するための誘致活動を積極的に推進するとともに、「周遊型観光」から「滞在型観光」への転換を進めることで竹富町固有の価値を高め、経済の好循環を図ることとしている。</p>
	7.3%	27.6%	65.1%	
与那国町	15.6%	21.1%	63.2%	<p>当町の主要産業は、農業が中心となり島の経済を支えてきたが、人口減少と高齢化が進む中で第3次産業における就業者数が大幅に増える現状となっている。</p> <p>第1次産業の中でもとりわけ農業がさかんで、サトウキビ、畜産、水稻及び近年は、新たな分野として薬用作物(長命草:ポトウボウフウ)の生産が拡大してきている。依然サトウキビ栽培は農業の主力である、近年は生産農家の減少から作付面積が減少していたがH27年度の製糖工場建替え事業へ向けた拡大取組みにより、生産量が回復してきている。畜産と水稻においては、担い手不足や新規就農者の伸び悩みから、農家戸数が年々減少し、生産高も減少し続けている。</p> <p>また、水産業においては、カジキ漁をメインにしながら、加工品の開発にも取り組んでいる。近年では、大物漁を目的とした釣り客が増えたことから、漁師の新たな収入源となっている。</p> <p>また、観光産業も当町の主要な産業である。当町は沖縄本島から南西へ約510キロ、東京から約1,900キロの日本最西端の島、隣接する台湾からは約110キロの至近距離にある国境の島である。さらに、豊かな自然や伝統芸能を有し訪れる人々を魅了している。</p>
	5.0%	28.1%	66.9%	

※ 市町村への聞き取り等により作成(未定稿)。

※ 産業構造欄の数値は上段が就業者割合(H22国勢調査)、下段が市町村内純生産(H25沖縄県市町村所得)。

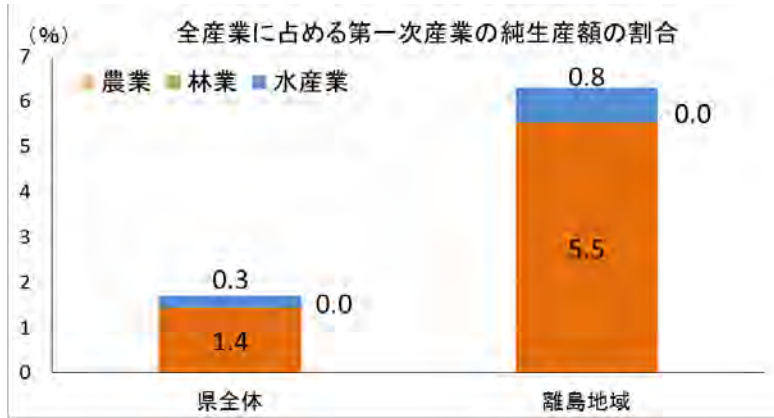
※ 津堅島(うるま市)及び久高島(南城市)の産業構造の比率は就業者についてのみ記載。

主要産業が異なる町村における施策

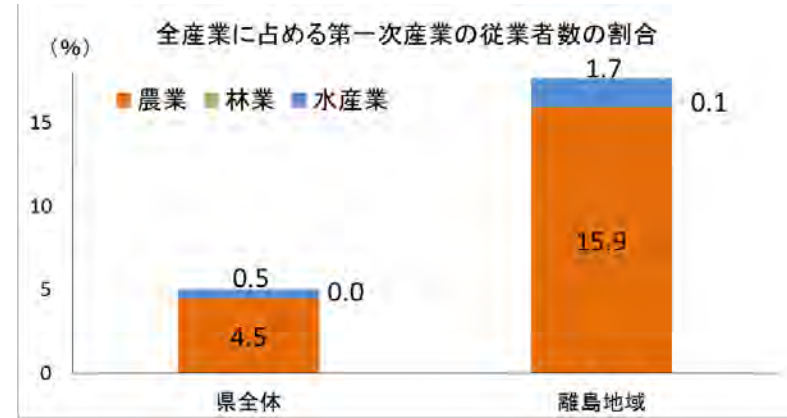
市町村名	事業年度	事業名 (利用した国庫補助事業名)	事業費【千円】 (うち国庫補助額)	事業内容
座間味村	H28年度	座間味村海域安全隊事業 (沖縄振興特別推進交付金)	15,950千円 (12,760千円)	村内指定3ビーチにおいて観光及び修学旅行シーズン中、海洋事故防止及び事前安全確保並びに自然環境保全を図るためライフセーバ員等を配置する。
	H28年度	座間味村観光受入拠点事業 (沖縄振興特別推進交付金)	15,835千円 (11,401千円)	外国人観光客を含む観光客誘客と満足度向上を図るため村の観光の総合場窓口となるさまざまな事業を実施するため観光協会への支援を行う。
南大東村	H25～ H26年度	さとうきび増産対策事業 (さとうきび増産基金事業)	33,893千円 (23,541千円)	南大東村さとうきび生産振興対策協議会を通じて、土づくり(パワーショベルによる深耕)、病虫害防除(フェロモンチューブを活用した更新攪乱・ハリガネ・イネヨトウ)への補助を実施する。
	H27年度	セーフティネット事業 (さとうきび増産基金事業)	50,445千円 (33,395千円)	南大東村さとうきび生産振興対策協議会を通じて、株出管理機、苗、薬剤等の購入補助を実施する。
与那国町	H25～ H28年度	与那国島歴史文化交流支援事業 (沖縄振興特別推進交付金)	72,708千円 (58,166千円)	与那国島の地域資源を活用した地域情報の発信施設及び資源以外の魅力を観光客など島内外へアピールすることを目的とする資料館及び観光の拠点として施設を整備する。 (H25～H27年度の事業費:320,314千円(うち国庫補助額:256,251千円) H28年度は繰越)
	H25～ H28年度	農水産業活性化事業 (沖縄振興特別推進交付金)	47,128千円 (28,342千円)	本事業では、農水産業の活性化と農業・漁業従事者の所得向上を図り、若者や子育て世代を中心とした島外への人口流出を防ぎ、島の活力の維持・創出に繋げていくために、次の整備及び支援等を行う。 【実施事業:与那国町さとうきびイネヨトウ防除事業、優良牛繁殖雌牛導入事業、水産物輸送コスト負担軽減事業、与那国町漁業担い手育成プラン実施事業】

離島における農業・水産業の振興

○全産業に占める純生産額と就業者数



資料:平成25年度沖縄県市町村民所得



資料:平成22年国勢調査

農業基盤整備

離島地域では水源が乏しく、干ばつの影響を受けやすいことから、地下ダム等の整備による農業用水の確保・安定供給や農地の大区画化等を推進。

水産基盤整備

県下の全ての離島市町村に漁港を整備し、周辺海域には浮魚礁(パヤオ)を設置する等、漁業の効率化や安全性の確保を推進。

製糖工場の整備

老朽化した製糖施設の近代化のための施設整備等を支援し、製糖事業者の安定操業を確保することにより、地域の基幹産業である「さとうきび・糖業」の持続的振興を図る。

農林水産物流通条件不利性解消の取組

県内の農林水産物の本土市場での市場競争力の向上、県外出荷時期・出荷量の拡大を図り、持続性のある農林水産業の振興につなげる。

離島市町村ごとの部門別経営体数

市町村名	農産物の販売 のあった 経営体 (A)	主な部門別経営体数(主位部門の販売金額が8割以上の単一経営体) 経営体数:(A)のうちの割合										漁業 経営体	戦略品目拠点産地認定
		工芸農作物		野菜 (露地・施設)		果樹類		花き・花木		肉用牛			
沖縄県	14,464	7,295	50.4%	1,527	10.6%	1,203	8.3%	970	6.7%	1,114	7.7%	2,616	
離島	7,741	5,443	70.3%	245	3.2%	141	1.8%	122	1.6%	855	11.0%	1,062	
石垣市	815	324	39.8%	30	3.7%	27	3.3%	9	1.1%	211	25.9%	203	オクラ、ヘリコニア、ジンジャー、パインアップル(生食用)、肉用牛(子牛・肥育)
宮古島市	4,702	3,742	79.6%	141	3.0%	87	1.9%	3	0.1%	359	7.6%	318	ゴーヤー、とうがん、かぼちゃ、マンゴー、肉用牛(子牛・肥育)、オクラ
伊江村	356	88	24.7%	35	9.8%	3	0.8%	81	22.8%	95	26.7%	49	とうがん、島らっきょう、輪ぎく、肉用牛(子牛)
渡嘉敷村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	
座間味村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57	
粟国村	46	20	43.5%	2	4.3%	-	-	-	-	13	28.3%	22	
渡名喜村	11	-	-	4	36.4%	-	-	-	-	-	-	62	(雑穀・いも類・豆類 6経営体 54.5%)
南大東村	159	141	88.7%	9	5.7%	-	-	-	-	-	-	17	
北大東村	82	65	79.3%	3	3.7%	-	-	-	-	-	-	14	かぼちゃ
伊平屋村	98	35	35.7%	5	5.1%	3	3.1%	-	-	12	12.2%	40	モズク、ヤイトハタ
伊是名村	176	157	89.2%	2	1.1%	-	-	-	-	2	1.1%	55	
久米島町	670	482	71.9%	11	1.6%	8	1.2%	28	4.2%	47	7.0%	137	ゴーヤー、小ぎく、輪ぎく、クルマエビ、肉用牛(子牛)、かんしょ
多良間村	245	177	72.2%	-	-	-	-	-	-	26	10.6%	11	肉用牛(子牛)
竹富町	217	100	46.1%	-	-	12	5.5%	1	0.5%	64	29.5%	29	パインアップル(生食用)、かぼちゃ
与那国町	164	112	68.3%	3	1.8%	1	0.6%	-	-	26	15.9%	33	ボタンボウフウ(薬用)

資料: 農業経営体数は2015(H27)年農林業センサス(農林水産省)、漁業経営体数は2013(H25)年漁業センサス(農林水産省)、
戦略品目拠点産地認定はH28年3月末現在(沖縄県)